

蔵王山安善寺

『法輪轉スル處食輪轉スル』

泰忍 弘



安善寺坐禅堂の聖僧文殊菩薩



大杓子に書かれた書



總持玄宗書

ご家族の皆さままでご覧下さい

◆編集・発行人◆
近藤真弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・高橋利春
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子
近藤久美子

印刷・株式会社印刷



ホームページ



Instagram

台風、地震と何かと落ち着かない夏でしたが、ようやくお彼岸を迎え、暑さも和らぐ時期になってまいりました。

先日、ふとあることを思い出しました。それは私の得度の師匠である藤本幸邦老師が大本山總持寺で修行中に当時總持寺の貫首であられた渡辺玄宗禪師よりいただいた大杓子(だくし)のことです。大杓子を頂いた経緯については生前藤本老師より次のようにお聞きいたしました。

藤本老師は当時大本山總持寺で「飯頭」というお役を務めていました。飯頭とは食事を司る「典座」の下で大衆の粥飯の世話を務める役です。

時は昭和二十年十二月の臘八(ろうはつ)攝心中、藤本老師をはじめ数人の修行僧が食事の準備をしていた典座寮(けんざせう)に僧堂(そうだう)の聖僧(しょうそう)文殊菩薩(もんじゅぼさつ)に仕える聖僧侍者(しょうそうじ)侍聖(しょうせい)のお役の修行僧が点検に来ました。侍聖和尚(しょうせいおしょう)は警策(けいさく)を片手に「なぜ皆が坐禅堂に座つてい

るのに典座寮の寮員は誰も坐禅をしていないのだ」と口宣(くげん)叱責(ちさく)を言われました。それに対して飯頭の藤本老師は大杓子(だくし)を持ち「典座寮は典座寮のやるべきことをやっている、坐禅堂で一日坐禅ができるのは坐禅をせずに食事を作る我々がいるからだ」と返しました。警策(けいさく)を持つ侍聖和尚(しょうせいおしょう)は大杓子(だくし)を持つ藤本老師の一触即発(いつしつげつ)な場面でした。いったんその場は収まり、後日その話を耳にした渡辺禪師が藤本老師にその時の大杓子(だくし)を持って時局(じきよ)に師様の居室(しやうじやう)に來なさいと仰りその場で大杓子(だくし)に書をしたためたそうです。

以上が私の聞いた大杓子(だくし)の経緯(けいらい)です。

そんなことを思い出しく、円福寺様の現住である藤本光世老師に御連絡(ごれんらく)をいたしました。突然(とつぜん)の連絡(れんらく)にもかかわらず、有難いことに藤本老師は直ちに写真(しやうしん)をお送りくださいました。

実は大杓子(だくし)の書をまじまじと読んだことがなく、私が推測(すいそく)するに、事の経緯(けいらい)を聞いた渡辺禪師(ぜんじ)が「任(まか)に当たって他に譲(ゆず)りがない」というような内容(ねいよう)が書かれていたとばかり思っていました。しかし内容は全く違うものでした。書は写真(しやうしん)の通りです。内容は「飯頭(はんとう)は古來(こらい)より大変(たいへん)優れた(すぐれた)実績(じせき)を持つ役(やく)であり、藤本幸邦(ふじもとゆきくに)禪士(ぜんし)は率先(さきあたり)して身を投げ出しその役(やく)を務(た)めている。そのような中(なか)、たまたま海軍(かいぐん)の特設燃料廠(とくせつねんりょうじやう)が本山(ほんざん)に仮住(かりず)まいしそのお札(おまじ)に木杓(きしやく)と米(こめ)一俵(いちへう)を寄贈(きよくわ)した。それを受け配給(はいきつ)の責任者(せきにん)である藤本幸邦(ふじもとゆきくに)禪士(ぜんし)曰(い)く、修行僧(しゆぎやうそう)よ配給(はいきつ)の多少(たうしょう)に心配(しんぱい)することはない、法輪轉(ぼんりん)する(は)ち道修行(だうしゆぎやう)を一生懸命(いっしやうけんめい)に努(こ)める(は)は食輪轉(じきりん)する(は)食(じ)べることには困(こ)らない(は)これは昔(むかし)より今(いま)まで変(か)わらない鉄則(てつそく)である。それを聞き感(か)を受(う)けここにこれを記(し)す」

私が思っていた内容(ねいよう)とは違(ちが)いますが、大変(たいへん)な時代(じだい)の中(なか)、仏道修行(ぶつだうしゆぎやう)に邁進(まいしん)する藤本老師(ふじもとらうし)のお姿(すがた)が目(め)に浮(う)かび、改めて感(か)激(げき)いたしました。どんな時代(じだい)であつても不変(ふへん)である仏教(ぶつぎやう)の教(きょう)えを先人(せんじん)たちに倣(なら)い今(いま)後も布教(ふきやう)してまいります。

連載 第四回

安善寺の歴史

昌興寺住職

石田 哲彌

(新潟県文化財保護連盟理事)

【4】堀丹後守直寄、長岡城を築城。併せて壮大な都市計画

敢行
 (1)堀直寄、安善寺を工事監督の拠点として都市計画の推進を見守る

蔵王堂城は信濃川河畔にある。よって耐えず城は水害によつて決壊されていた。そこで、城主、堀直寄は新しい場所に城を築く決断。実は新しく城を築くこと、そして都市計画を進める計画は、すでに第1次蔵王堂城主であったときからの懸案事項であったのであり、また直寄の夢でもあったのである。

かつて彼は豊臣秀吉の小姓時代に石田三成など卓越した武将が作った機能的な都市づくりをつぶさに学んできた経験があった。そして、一度は自分もこうした壮大な都市を建設してみたいと思つたのである。

こうしたことから彼は、現

在の蔵王堂から南の東山麓に広がる台地と信濃川に挟まれた雄大な地に、先輩に伍して新しい城を中心とした壮大な都市づくりに意欲を燃やしていたのである。

『越州古城付 堀丹後守』では「この城地、堀丹後守繩張りして築したところ要害堅固なり南は妙見鉄(くろがね)坂、北は猿橋大榎…とあり、普請は早急に進み蔵王町を早々に立退かざるをえない状況となつたので、神田町安善寺境内へ当分移り住み…」とある。南は妙見、北は猿橋という実に広大な都市計画であった。

そして別の文書では「元和年間、蔵王堂城主堀直寄が(長岡城築城のために、安善寺に)3年もの間、寄寓していた」とある。蔵王堂城の決壊がこののほか早かつたことから安善寺を仮城として3年余り居住し、安善寺を拠点に工事の

推進を見守っていたのことが記されている。

直寄は蔵王堂城に赴任するや、工事事務所を蔵王権現別当安禅寺の「分寺格」である安善寺に置いて、さっそく都市計画を実行に移したのであった。そして在任期間の3年間、同寺に宿泊し、安善寺から工事に関する総指揮をとっていたのであった。

工事はまず寺院の移転から始まった。55か寺中9か寺が建設が始まると同時に移転を開始という、徹底ぶりであったという。

星山貢はその著書、『蔵王大権現及王神史』で「安善寺」について、「蔵王山安善寺、曹洞宗 長岡市神田町三丁目下総香取郡伊能村長興院の住職存宗(曹洞宗大須賀村に現存当主野村道宗)。天文12年、神田村に安禅寺の法灯を分採して創立したもの。口碑には存宗は安禅寺に寄寓していた

という。元和になつて堀直寄が3年も仮寓したことは別にと伝える」とわざわざ述べているだけである。

蔵王権現に詳しい星山貢氏であったが、残念ながら安善寺については、そう深く研究をしていなかったとみられる。なお、安善寺と同じ山号をもつ蔵王山徳宗寺(真宗本派)についても「長岡市大工町

山号は所在の表明が本義故元蔵王に居ただけか或いは末寺改宗か」と、これまた、わずかしか述べていない。いうなれば、安禅寺と安善寺の深い関係については全く気付いていなかったのではないかと思われる。

なお、徳宗寺については移転組に入り、早々に移転をさせられている。



蔵王安禅寺前の堀直寄公



本寺 長興院山門



本寺 長興院鐘楼堂

(2) 堀丹後守直寄異聞

その外に、堀丹後守直寄に
関する異聞が若干存在するの
で付記しておこう。

[1] 安善寺前の丹波井戸

江戸時代、参勤交代におい
て、諸侯が長岡を通る通路は
長岡城の大手門を避けて柳原
から本町呉服町：つまり今の
国道を通るのであったが、村
松侯（堀丹波守直時）は長岡
城を先祖（堀丹後守直寄）の
築いたことから年に1度、大
手門前を通ることが許され
た。ある時、村松侯が長岡に
入ると喉が乾いて水を所望し
たが良水がなく、安善寺前で

ようやく喉を潤すことができ
た。村松侯は大喜びをして、
目通り8町の地を井戸に与え
たが、井戸が主では仕方がな
いので、傍の桶屋に管理させ
た。よってこの地を桶屋町、
また井戸の名前を丹波井戸と
称した。なお、村松侯は参勤
交代において、丹波河渡から
上陸し、蔵王権現に参拝し、
宿泊するか小休みをしたとい
う。

この井戸について星山貢は
その著書、『蔵王大権現及王
神史』において次のように述
べている。
「先に述べた直寄が寄寓し

た安善寺前に丹波井戸とて、
ポンプ二挺かけの豊かな井戸
があったのを昭和7年につぶ
してしまったのは惜しい事であ
った。前述、河渡から蔵王
社前を通じ城岡土手へ直通す
る道を丹波街道という。三者
（丹波街道・丹波河渡・丹波
井戸）をもって、「直寄の三
史跡」と称すべきであるが惜
しむべきである」と述べてい
る。

[5] 終わりに

蔵王堂城と蔵王権現、歴史
深い別当の安禅寺、そして栖
吉城と栖吉長尾氏、それに名

刹普濟寺、さらにはそれらを
つなぐ神田の巨刹安善寺、と
中世の長岡の歴史がようやく
明らかとなった。これまで、
闇に眠っていた遺産が明るみ
に出たのである。これをもつ
てようやく戦国時代における
長岡市の重要な歴史がつか
がった気がする。

近年、戊辰戦争関係が重視
され、蔵王権現や安禅寺、加
えて栖吉城など長岡市の貴重
な遺産に余り重きが置かれて
いないように感ずるが、こう
したかけがない歴史の遺
産は長岡市にとってまさに重
要な原点であり、また基礎で

もある。

今更ながらではあるが、今
一度、これらの貴重な遺産に
目を向けなければならぬの
ではなからうか。まずは栖吉
城の探索から始めてはいかが
だろうか。

安善寺の歴史を
執筆いただき

この度、四号にわたり
石田哲彌老師の書かれた
「安善寺の歴史」を掲載さ
せていただきました。

安善寺御開山様のお話
や、蔵王の安禅寺様や堀
直奇公との関係、長岡城
築城に関わるお話など、
私自身も初めて知る安善
寺にとって大変貴重な歴
史をお調べいただき、執
筆いただいた石田老師に
改めて感謝いたします。

多くの檀信徒の皆様にも
安善寺の歴史に触れて
いただき、より親しみを
感じていただけると幸甚
に存じます。

安善寺住職 近藤真弘

【特集】6/27(木)～29(土)

「曹洞宗大本山總持寺御開山太祖瑩山禪師七〇〇回 大遠忌参拝と母畑温泉の旅」旅行記

新潟ビーエス観光 飯泉 隆史

今年の夏も暑い日が続きますね。また天気もゲリラ豪雨や台風の被害など大変ですね。

いろいろなことが続きますがいよいよ今年は瑩山禪師の七百回大遠忌を迎え、教区の団参として安善寺様のお檀家さんからも多数ご参加を頂きました。

総勢四十一名様のご旅行と



塩屋埼灯台



ほるる石炭化石館

なりました。今回はこの遠忌団参について御案内していきたいと思えます。

六月二十七日、二泊三日の旅が始まりました。各地にお迎えに上がり大本山總持寺に向かいます。

最初の立ち寄りには昼食会場の豊洲市場の千客万来です。平日とはいえ予想通りの人込み。何処に向かえばよいのかわからないくらい店舗があります。ここは機会をみて何度か来た方が良くかもしれませぬ。

食後、大本山總持寺様へ。



白水阿弥陀堂

到着後諸堂拝観、葉石（夕食）、その後法話とビデオを鑑賞し、入浴後開枕（就寝）です。

明朝は本堂の大祖堂にてご先祖様の供養、朝課後集合写真を撮り、小食（朝食）のあと出発という流れになりました。食事は精進料理で大変おいしくいただきました。やはり本山は気が引き締まります。日帰りが増えてくる中で本山に泊まる機会は貴重だと感じました。

本山を出発し、栃木に向かいます。やはり首都高は大変混みますね。時間はかかりま



大本山總持寺での食事

したが無事に昼食会場のとちぎろまんちつく村へ。栃木ゆめパークをいただき、その後大谷寺へ。

磨崖仏を初めて見る方も多く、とても興味深く拝観してました。

また大谷資料館で広大な地下空間をご覧になりましたが、寒くて寒くて見学しながら辛いところが、羽織るものが必要でしたね。

見学後母畑温泉八幡屋へ。ゆつくりと温泉に使っていただき、夜の大宴会へ。会話も弾み、とても賑やかな宴席でした。こういう機会はいいいのですね。

最終日、丁寧に御宿の方から見送られ、いわき市へ。国宝白水阿弥陀堂へ。このお堂

は昨年の豪雨で本堂が水没し甚大なる被害が出たところですが、きれいに復旧されていました。

その後石炭化石館ほるるへ。石炭の歴史、採掘の際発見された化石とダブルで楽しめる所。人数が多かったためか案内人が一つにも増して熱く語っていました。ここは本当に楽しいですね。そして昼食はまるかつにて海鮮丼をお召し上がりいただきました。

最後は塩屋埼灯台へ。階段が多くあるので希望者のみ灯台へ。天気はとても素晴らしく、海の色があんなに青いのは見たことありません。

そして磐越道と北陸道を利用し帰路につきました。

天気に恵まれ、人に恵まれとても楽しい旅行でした。ご参加された方とてもありがとうございました。

初めての教区での団参でしたが、皆さん和気藹々で楽しんでいただけた印象を受けました。また機会があれば是非来年も教区団参でと考えています。その際もたくさんの方のご参加をお待ちしています。

KAKA笑の会からのお知らせ

深まる秋に、歌と演奏をお楽しみください。

「秋の夕べのコンサート」

美しい歌と演奏は「ピース オブフォレスト」3人のユニットです。

・ボイカル

・加瀬典子さん(新大教育学部特別教科音楽課程・卒)

・キーボード

・深田美恵子さん(ヤマハエレクトーン講師、県内外演奏活動)

・島山徳雄さん(県ギター協会会長、フランスでリサイタル等重鎮)

オールラウンダーの3人の演奏は、安定感のある心地よい音色で、皆様に感動を与えること、間違いなしです。

当日の曲の一部を紹介し

- ・向日葵(有名な映画より)
- ・サクランボと麦わら帽子
- ・花は咲く(東日本大震災追悼)
- ・秋桜(コスモス)
- ・川の流れるように
- ・愛の讃歌(パリ五輪開会曲)
- ・ララのテーマ(ドクトルジバゴより)
- ・禁じられた遊びのテーマ
- ・ベニスの夏の日(旅情より)

当日スペシャルまだまだあります!



・開催日時

10月25日(金)

18時30分〜20時

・会場

安善寺本堂

・チケット代金

2,000円

KAKA笑の会実行委員か、安善寺にてお求めください。



安善寺よろず掲示板

『寺行事予定』

九月十八日

吒枳尼尊天

秋季大祭典

秋季彼岸会

九月十九日

入り歎仏法要

二十一日

中日施食法要

二十五日

明け歎仏法要

慈雲塔供養

十二月一、三、五、七日

臘八攝心

八日 成道会

九日 断臂攝心

*盂蘭盆会施食法要の経木塔婆をお持ちの方は彼岸中にお寺にお持ちください。

『大本山總持寺とフードバンクにお米を送る運動』

本年も大本山總持寺とフードバンクにお米を送る運動を実施致します。昨今米不足の報道を耳にします。御無理の無い中でご協力いただける方は十月二十五日までにお寺にお持ちいただくか、御連絡をいただければ取りに伺います。詳細はお尋ねください。

安善寺 庭園型樹木葬 『翠緑の小径』

- お盆に樹木葬墓地で御法要
- お盆でもお申込みいただけます(預金に代るお盆はありませぬ)
- 葬儀者がいないでも安心(永代供養墓)
- 生前のお墓です
- 成人3歳まで個別にお別れます
- 年賀の墓山内だからすぐお盆にお参りします



【お問合せ】株式会社 放光
フリーダイヤル 0120-811-112

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ
<https://anzenji-jyumokusou.com/>



仏さまのおすそわけ 数珠つなぎフードパントリー

～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！



* 詳細はお寺にお尋ねください *

主催：長岡市仏教会青年部

協力：新潟県フードバンク連絡協議



この夏、特別な夏休みを過ごした子供たち 今度は、異文化交流で海外へ 平和は若い世代にかかっているにゃん！



暑い毎日をダラダラと過ごした私たちとは違って、子供達は特別な夏休みを過ごしました。

久美さんの帰省中に広島へ行き、原爆ドームや原爆資料館で悲惨な事実を見て衝撃を受けたようです。

核のない世界へ、そして平和な世界へ、漠然と願うだけではなく、小さなことでもいいから自分にも何かできることはないのか、そう考えられるいい機会だったではないでしょうか。

もう一つ特別なことは、真人君が今年の十月に長岡市国際交流協会の中学生海外体験プログラムに参加できることになり、長岡市の姉妹都市であるテキサス州のフォートワースへ行くことになったのです。

初めての海外、しかも真人君は英語が大の苦手。10日間

ホームステイをしながら異文化交流するそうですが、大丈夫かなあ。

でも話せなくても伝えようとする相手はわかってくれないはず。事実、私やビビの猫語を理解してくれているのですから。

今回の交流はアメリカと日

本。辛く悲しい歴史は変えられませんが、若い世代の人たちが交流することによって二

度と愚かな選択がされない世の中を作ることは可能だと思います。

真人君、悠真君、平和は君たちにかかっている！よろしくたのむにゃん！



お気に入りの猫タワー

第一〇八号は令和七年一月一日(水)発刊予定です

編集 雑感

先日、二枚目の代名詞とも云われたフランスの俳優アランドロンさんが亡くなりました。

八十八歳の寿命でした。日本は世界の中ではトップクラスの長寿の国です。その指標としての平均寿命ですが、五十人の子供がゼロ歳で亡くなり、五十人の大人が百歳で亡くなる、平均寿命は五十歳になりません。日本では医療の発達により子供の死亡が激減したこと等の要因により男性八十二歳、女性八十八歳と大きく伸びました。もう一つの指標として健康寿命があります。寝たきりや認知症でない通常の日常生活が出来る

ている方という定義だそうですが、男性七十三歳、女性七十五歳となっています。

私は今のところ健康寿命を超えた寿命を頂いています。寄る年波には勝てず、体力の衰えは如何ともしがたく、気力でカバーするしかありません。大事なことは自分で衰えを出来るだけ感じない毎日を送ることです。

大した趣味も持っていないので何かを見つけようと思っておりましたら、近所の方が「俺はドローンの操縦を始めた」云うのを聞き、私もチャレンジしてみようか思っているところです。ドローン操縦には試験を受ける必要があることも判りました。雑用を早く片付けて取り掛かりたいと思っています。

もう一つチャレンジのヒントをもらいました。世界遺産検定というものが在るそうです。旅好きな私としては、佐渡の金山が世界文化遺産登録になったこともあり、この検定にチャレンジも面白いかなと思つています。

まだまだ好奇心を持っていろんなことに取り組んでいくことで健康寿命をもう十五年位は伸ばすことが出来るのではないかと思います。今日この頃です。

(高橋 潔)

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仕事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります